令和７年度　本明川学識者懇談会

資料－2

本明川（ほんみょう）総合水系環境整備事業

① 事業採択後３年経過して未着工の事業

② 事業採択後５年経過して継続中の事業

③ 着工準備費又は実施計画調査費の予算化後３年経過した事業

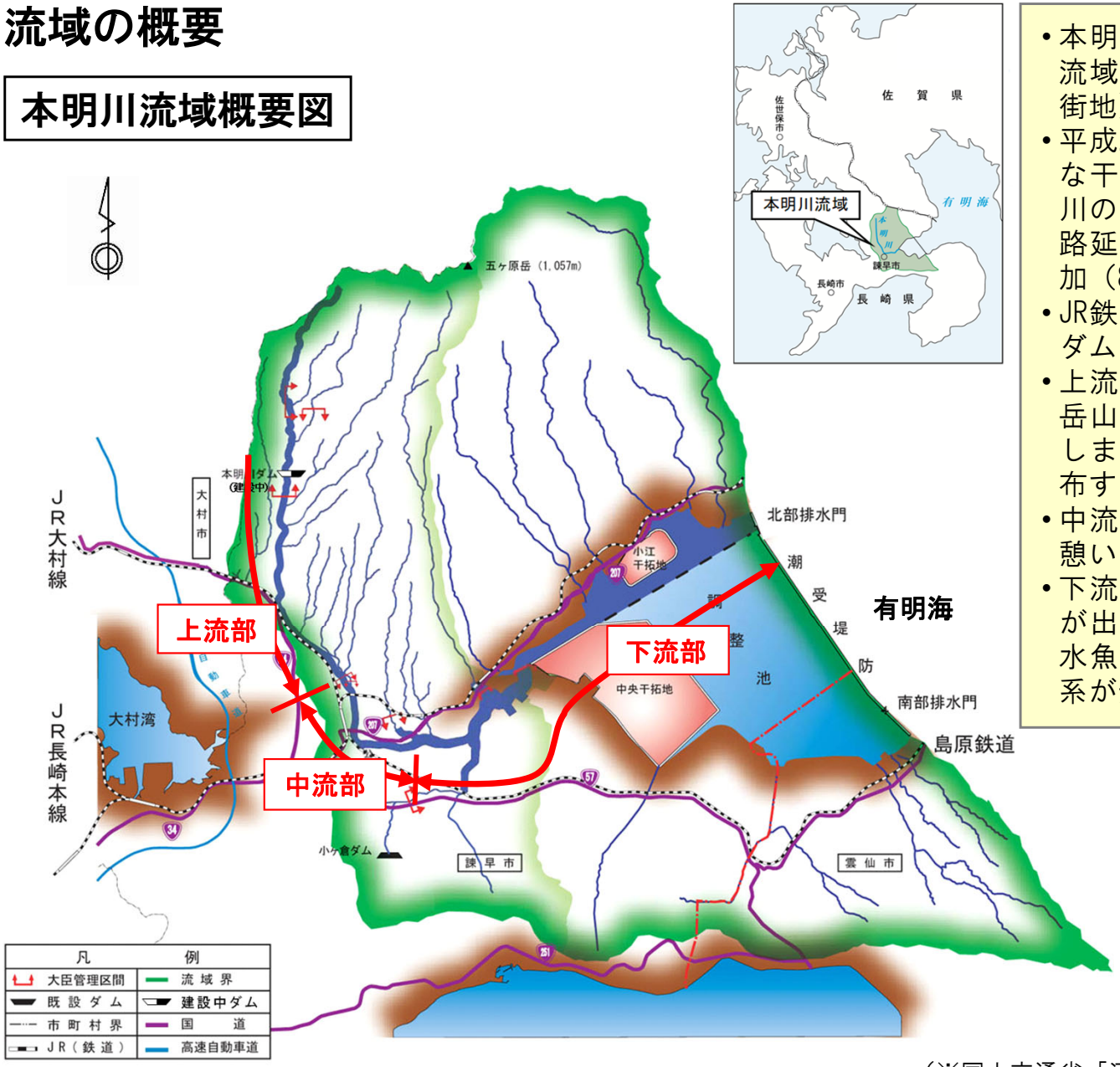
④ 再評価実施後5年経過した事業

⑤ 社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

流域の概要

本明川流域概要図



- 本明川流域は、長崎県諫早市及び雲仙市に属し、流域内人口のほとんどが本明川中流部（諫早市街地）に集中している。
- 平成20年3月には諫早湾干拓事業が完了し、広大な干拓地が創出された。このことにより、本明川の下流部が約7km延伸（本明川大臣管理区間流路延長7.3km→14.2km）し、流域面積も162km²増加（87km²→249km²）している。
- JR鉄道橋から約6.5km上流付近では、現在本明川ダムが建設中である。
- 上流部では、「多良岳県立公園」である五家原岳山頂部の一部にモミ個体群や景勝地として親しまれている富川渓谷のスダジイ自然林等が分布するなど、豊かな自然環境を有している。
- 中流部では、諫早市街地を流れ、水辺は市民の憩いの空間として広く親しまれている。
- 下流部では、新たに調整池や広大な自然干陸地が出現し、ヨシ群落の繁茂、渡り鳥の飛来、淡水魚類の生息、水生生物や昆虫など新たな生態系が形成されている。

本明川の概要

流域面積	249km²
幹川流路延長	28km
流域内人口	約9万人※
流域内市町村	2市（諫早市・雲仙市）

（※国土交通省「河川関係統計データ」：平成22年国勢調査をもとに算出）

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

（1）地域開発の状況

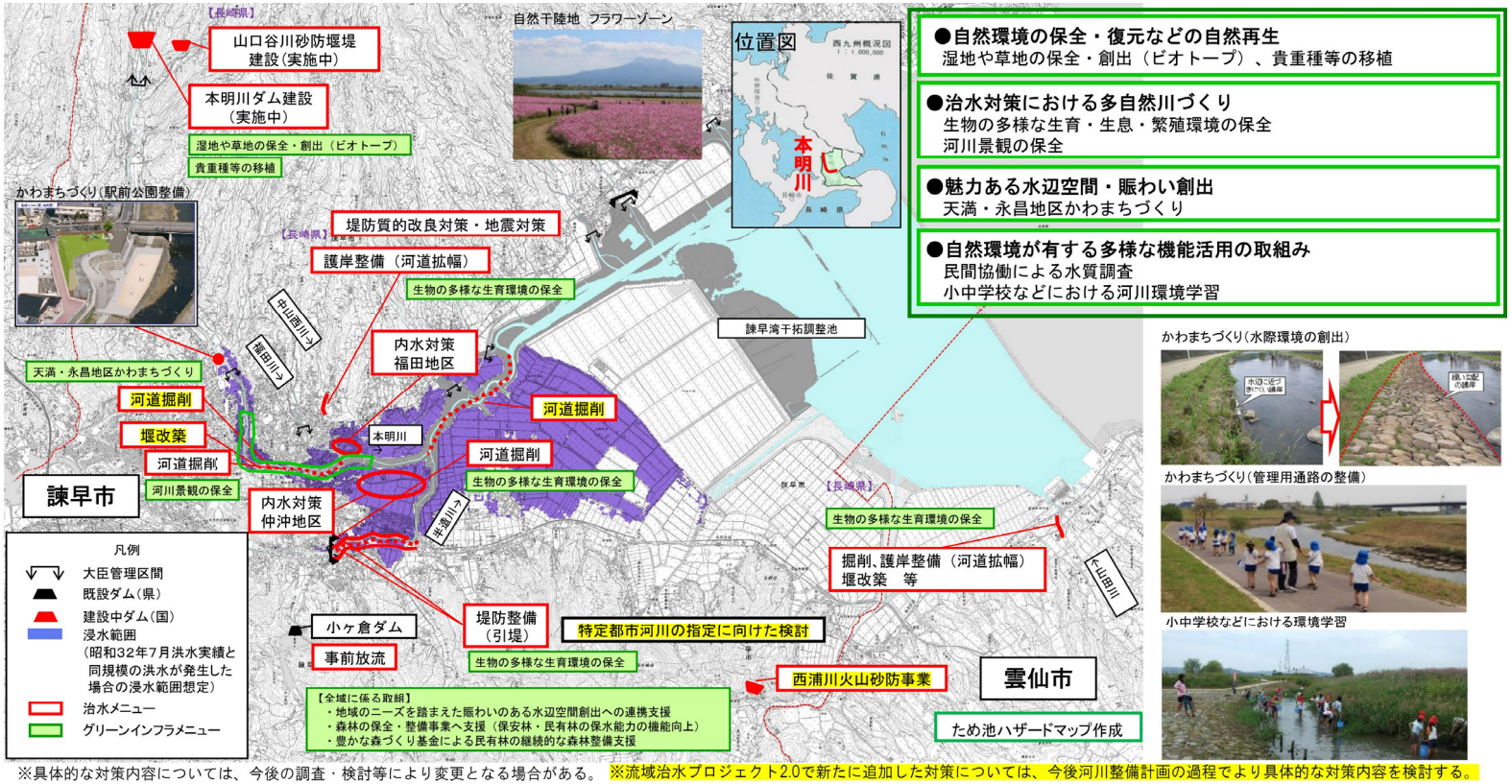
【本明川水系流域治水プロジェクト2.0】

・本明川水系国管理区間において、気候変動下でも、甚大な被害が発生した昭和32年7月洪水（諫早大水害）の2℃上昇時の降雨量増加を考慮した雨量1.1倍となる規模の洪水を安全に流し、流域における浸水被害の軽減を図ることを目指し、本明川水系流域治水協議会において、堤防整備や本明川ダムの建設、流出抑制対策の検討や特定都市河川の指定に向けた検討等、流域自治体が一体となった防災・減災対策を図る「本明川水系流域治水プロジェクト2.0」を令和6年3月にとりまとめた。

【本明川水系流域治水プロジェクト【グリーンインフラ】】

・諫早市の「新幹線開業を活かした諫早市魅力創出行動計画」において、駅前公園整備による新たな親水空間の提供、本明川散策路整備による回遊促進を具体的な取り組みとして設定しており、概ね今後4年間（令和6年3月時点）で天満・永昌地区でのかわまちづくりをすすめるなど、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進する。

●グリーンインフラの取組　　『川と触れ合い、親しめる潤いのある水辺空間の整備』



【全域に係る取組】

・地域のニーズを踏まえた賑わいのある水辺空間創出への連携支援
・森林の保全・整備事業へ支援（保安林・民有林の保水能力の機能向上）
・豊かな森づくり基金による民有林の継続的な森林整備支援

「魅力ある水辺空間・賑わい創出」の取組として、“天満・永昌地区かわまちづくり”を推進することとしている。

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。　※流域治水プロジェクト2.0で新たに追加した対策については、今後河川整備計画の過程でより具体的な対策内容を検討する。

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

（1）地域開発の状況

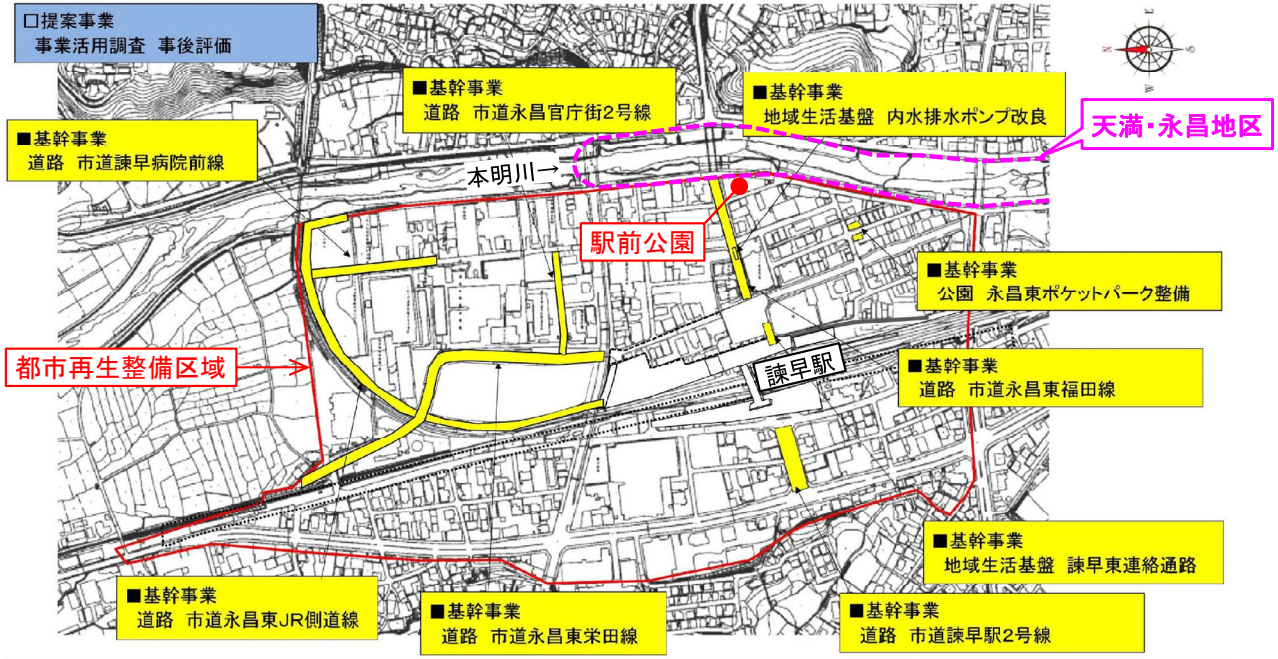
【自治体の取組（諫早駅周辺地区都市再生整備計画）】

・諫早市では、令和4年の西九州新幹線の開業を機に、快適な都市空間を創出し、交流と活力を生み出す諫早駅周辺のまちづくりを進めるため、平成27年から「諫早駅東地区第二種市街地再開発事業」を核とした都市機能の再整備により、自由通路、再開発ビル、公共交通広場など交流と賑わいの空間を創出し、地域活性化の基盤形成を進めている。

・西九州新幹線の開業及び諫早駅周辺の再開発事業により、駅の利便性向上やまちなか定住の促進による賑わいの創出が図られ、諫早駅の自由通路や再開発ビル、交通広場等の施設整備により、新幹線駅とバスターミナルが直結し、公共交通機関の乗り継ぎが大幅に改善されている。

・今後は、西九州新幹線の開業効果を更に高めるため、基盤整備による諫早駅周辺の交通結節点の強化を行い、駅周辺の豊かな自然環境を活かした回遊性の高い歩行空間の確保や防災拠点となる県南振興局や災害指定病院、災害時の避難所につながる道路網の充実を図り、まちなか居住の促進につなげるため以下の取組を進めることとしている。

①県央の玄関口としての更なる交通結節機能の強化
②交通弱者等への移動等円滑化と中心市街地の豊かな自然環境を活かした回遊空間の創出
③防災拠点一帯の道路交通網の充実
④都心機能の集積とゆとりある都市空間の創出によるまちなかへの居住誘導



諫早駅周辺地区（第3期：令和6年度～令和10年度）整備方針概要図（一部加筆）

諫早駅周辺の状況

出典）諫早市ホームページ

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

（２）地域の協力体制

◆平成２４年４月から地域住民や学識者、諫早市、国土交通省等から構成される「本明川河川利用懇談会」を設立し、整備内容や河川空間利用者の安全性の向上等、様々な議論を経て実施している。

◆平成２８年度には、新幹線開業に向けて中心市街地のさらなる賑わいづくりを支援するため、駅前公園と本明川の一体整備（拠点づくり）について、本明川で長年河川愛護活動を続ける「本明川オピニオン懇談会」において整備内容や利活用に関する検討を行っている。

◆管理用通路等が整備された河川空間では、地域住民等により定期的に清掃活動が行われている。

◆整備された駅前公園広場は、“リバっぱ”という愛称で親しまれ、永昌東町自治会のほか、長崎大学、鎮西学院大学の学生や永昌東町商店街メンバーの企画・運営によるイベントも開催されている。

地域住民等による清掃活動

駅前公園広場（愛称“リバっぱ”）お披露目会（令和6年3月31日）

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

（3）関連事業との整合

◆「本明川河川利用懇談会」により、河川利用上の問題点や管理用通路の整備等本明川河川空間の面的整備について議論されており、その中で、「天満・永昌地区かわまちづくり」の検討を進め、平成２５年３月に認定登録をうけている。

◆「本明川オピニオン懇談会」及び「本明川河川利用懇談会」により、駅前公園と本明川の一体的な拠点整備について議論されており、その中で、「天満・永昌地区かわまちづくり（変更）」の検討を進め、令和２年３月に変更認定登録をうけている。

◆諫早市では、新幹線開業効果を最大限に引き出すため、「新幹線開業を活かした諫早市魅力創出行動計画」を平成３１年４月に策定し、基本戦略「拠点整備」の施策として「諫早駅周辺回遊促進のためのハード整備～自然を活かした空間づくり～」を設定し、「①駅前公園整備による新たな親水空間の提供」及び「②本明川散策路整備による回遊促進」による本明川を活用した取り組みを進めることとしている。

様式B

「天満（てんまん）・永昌（えいしょう）地区かわまちづくり」（諫早市）

市町村名：長崎県諫早市

対象河川：本明川水系本明川

1. 概要

諫早市では、九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）の開業に向け、諫早駅周辺地区の整備構想等を策定しており、その中で諫早市のシンボルとなっている本明川の自然環境や景観を保全・創出するとともに、本明川を自然や四季を感じる空間として位置付け、「まちなかにある諫早固有の自然や、「諫早万灯川まつり」や「本明川魚つかみ取り大会」等の地域のイベント・祭りといった「諫早らしさ」を引き出すような施設整備や都市景観の創出を図ることにより、「生活するひと」や「訪れるひと」が「ほっ」と癒される空間の形成を進めている。

そこで、駅周辺整備や都市再生整備等と合わせ、諫早市のシンボルとなっている本明川の自然環境や景観を保全・創出する水辺整備を行うことにより、本明川を自然や四季を感じる空間として魅力ある水辺・まち空間を形成するとともに、観光振興への寄与を図る。

2. 整備内容

天満・永昌地区かわまちづくり整備イメージ

諫早万灯川まつり

本明川魚つかみ取り大会

整備内容（かわまちづくり事業）
<国土交通省>
○管理用通路の整備
○管理用階段の整備
○諫早の整備
<諫早市>
○公園、（仮称）歴史文化館整備 等

天満・永昌地区かわまちづくり（平成25年3月登録）

基本戦略Ａ　【拠点整備】
－県央地域の玄関口としての機能強化・充実－

A	施策	具体的取組
A-1	新幹線開業に合わせた諫早駅周辺整備 ～県央地域の拠点にふさわしい駅空間の整備～	① 新幹線駅舎整備 ② 諫早駅周辺整備
A-2	諫早駅から周辺観光地等へのアクセス向上 ～諫早駅と周辺地域のネットワークづくり～	① バス待合所と交通広場の整備 ② 地域公共交通の適切な接続 ③ 互換性のある交通系ＩＣカード導入 ④ 周辺道路交通網の整備 ⑤ 駐車場、駐輪場の整備
A-3	諫早駅周辺の商業施設の充実 ～商い空間の整備～	① 再開発ビル内への商業床の整備 ② 民間投資による諫早駅周辺の活性化
A-4	諫早駅の「おもてなし空間」の整備	① 自由通路観光案内ＰＲコーナーの充実 ② 交流広場の整備（再開発ビルＩ棟２工区） ③ 周辺飲食店情報等の適切な提供
A-5	諫早駅周辺回遊促進のためのハード整備 ～自然を活かした空間づくり～	① 駅前公園整備による新たな親水空間の提供 ② 本明川散策路整備による回遊促進
A-6	交通利便性が高い諫早駅周辺への定住促進 ～居住空間の提供～	① 再開発ビルⅡ棟（マンション棟）の整備 ② 民間投資の誘発

新幹線開業を活かした諫早市魅力創出行動計画（平成31年4月）

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

（4）河川環境等をとりまく状況

■各区間の特徴

【上流部】

- スギ･ヒノキ植林の中の渓流部を抜けて、両岸に広がる棚田の間を南下する。JR鉄道橋から約6.5km上流付近では、現在本明川ダムが建設中である。
- 河道内に点在する小規模な瀬と淵に、カジカやカワムツなどが生息・繁殖するとともに、局所的に形成された早瀬の浮き石状態の礫間にはアリアケギバチが生息・繁殖している。
- 景勝地の富川渓谷があり、自然探勝や行楽に訪れる人々の憩いの場となっている。

上流部

【中流部】

- 諫早市街地を流れ、特殊堤区間の水辺には河川公園や遊歩道が整備されている。
- 国指定天然記念物の城山暖地性樹叢が公園堰右岸にあり、水と緑の環境を創出している。水域はオイカワやカワムツなどの生息・繁殖の場となっており、それらをエサとするカワセミやサギ類が見られる。
- 河川空間は、散策や水遊び釣りなどに利用され、沿川住民に親しまれている。

中流部

【下流部】

- 干拓により開けた広い水田地帯を、緩やかに蛇行しながら流下する。
- 高水敷に広がるヨシやオギなどの植物群落が、オオヨシキリ、カワセミ、コサギなどの鳥類や葉上生活を営むカヤネズミにとって好適な生息空間になっている。諫早湾干拓事業により延伸された区間では、塩沼湿地が消失して新たに調整池や広大な自然干陸地が出現し、水辺ではヨシ群落の繁茂、渡り鳥の飛来、淡水魚類の生息、水生生物や昆虫など新たな生態系が形成されている。
- 仲沖地区では桜づつみ、自然干陸地ではフラワーゾーン・クロスカントリーコース、調整池ではボートコースが整備され、地域が主体となって水辺の賑わいの創出が行われている。

下流部

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

（５）河川の利用状況

◆ 本明川中流部の諫早市街地区周辺の河川敷や水辺では、地域住民の憩い、安らぎの場として散策や水遊びなどの日常的な利用のほか、「諫早万灯川まつり」、「流鏑馬」、「本明川魚つかみ取り大会」等のイベントや近隣小学校の環境学習などに利用され、親しまれている。

◆ 本明川下流部の仲沖地区の水辺では、管理用通路や多自然護岸等の整備を行い、日常的な散策や魚釣り、自然観察、環境学習の場等として利用され親しまれており、当該地区に整備された「本明川桜づつみ」は諫早市の桜観賞のスポットになっている。

◆ 本明川下流部の「干陸地フラワーゾーン」では、地域住民によってコスモスの栽培などの環境保全活動が行われ、秋にはコスモスまつりが開催されている。深海地区では、「幻の高来そば」と呼ばれる地域のそばを、栽培・販売する試みが行われている。これら地域の取組み等を踏まえ、令和3年8月、本明川河川敷（高来地域）において都市・地域再生等利用区域の指定（河川空間のオープン化）が行われている。

◆ 本明川下流部の直線で5kmを超える長大な水面は、ボート競技場（本明川ボートコース）として利用されており、令和4年10月には日本オリンピック委員会の競技別強化センターに認定された。令和2年からは、本明川の地域資源に親しむ機会をスポーツを通じて創出することを目的に、「本明川スポーツフェスタ」が開催されている。また、令和6年度全国高等学校総合体育大会のローイング競技会場にもなっている。

散策

諫早万灯川まつり

本明川魚つかみ取り大会

本明川桜づつみ

コスモスまつり

ボート競技

1. 事業の必要性 ②事業の投資効果

費用対効果分析（水系全体）

項　目	前回評価時 （令和２年度）	今回評価時 （令和７年度）	変更理由
総事業費	約16億円 【水辺整備】 ・仲沖・新地地区：約8.4億円 ・天満・永昌地区：約7.5億円	約16億円 【水辺整備】 ・仲沖・新地地区：約8.4億円 ・天満・永昌地区：約7.3億円	・現在価値化による更新 ・集計世帯数の更新による便益の変更 ・工事諸費を計上しないことによる費用の変更
事業完了年	令和９年度	令和９年度	
Ｂ／Ｃ	1.8	1.8	
Ｂ（便益）	約45億円	約51億円	
Ｃ（費用）	約26億円	約28億円	

※令和７年度より、工事諸費を除いた額をＣ（費用）として算出。

※ B/Cの算出は、便益を費用で除算することにより算出する。便益はアンケート調査によって求めた年支払意思額と便益が及ぶ世帯数を積算し、これを社会的割引率（4%）を考慮し完成後５０年分を足し合わせることにより算出する。費用は社会的割引率等を考慮した事業費と完成後５０年分の維持管理費を足し合わせることにより算出する。

1. 事業の必要性 ②事業の投資効果

＜費用対効果等＞

事業区分				事業費	主な整備内容	便益(B)	費用(C)※1	B/C
全事業				16億円	―	51億円	28億円	1.8 ※2：社会的割引率 1%の場合：3.0 2%の場合：2.5
	完了箇所			8.4億円	―	24億円	20億円	1.2
		水辺整備		8.4億円	―	24億円	20億円	1.2
			仲沖･新地地区	8.4億円	高水敷整正、管理用通路、護岸、水制	24億円	20億円	1.2
	継続箇所			7.3億円	―	27億円	8.4億円	3.2
		水辺整備		7.3億円	―	27億円	8.4億円	3.2
			天満･永昌地区	7.3億円	管理用通路、管理用階段、護岸、高水敷整正、モニタリング調査　等	27億円	8.4億円	3.2
残事業				0.05億円	―	0.2億円	0.04億円	5.4
	残事業	水辺整備	天満･永昌地区	0.05億円	モニタリング調査	0.2億円	0.04億円	5.4

※1：令和７年度より、工事諸費を除いた額を「費用：C」として算出

※2：B/Cの算出にあたり、社会的割引率は全事業において4%を適用しているが、最新の社会経済情勢等を踏まえ、比較のために参考とすべき値を2%、及び、1%と設定し、令和5年度以降に適用した場合の算出結果を示した。

	アンケート実施時期	アンケート手法	アンケート配布数	有効回答数	集計範囲	集計対象世帯数	支払意思額（円／月･世帯）
仲沖･新地地区	平成20年度	郵便	1,050票	241	半径10km圏内	30,326	174円
天満･永昌地区	令和2年度	郵便	2,000票	375	半径10km圏内	38,374	291円

1. 事業の必要性 ②事業の投資効果

≪効果名≫　　【効果の概要】

①便益の算出：約５１億円
（良好な景観の形成、人と自然の豊かな触れ合い活動の場の確保、河川空間利用の増進等）

②歴史的文化を活かした教育効果：諫早神社、諫早公園（眼鏡橋）等と一体となった利用の場の創出　P14、16

③地域のにぎわいの創出：水辺イベントの開催の場
地域のイベント時の観覧場所として活用　P14、16、18

④治水安全性の向上　：河川空間の利用者の安全性向上、巡視・管理の円滑化　P14、15

⑤良好な自然環境の保全：地域が主体となった河川周辺の除草・清掃活動
河川を活用した野外学習（水生生物調査等）　P16

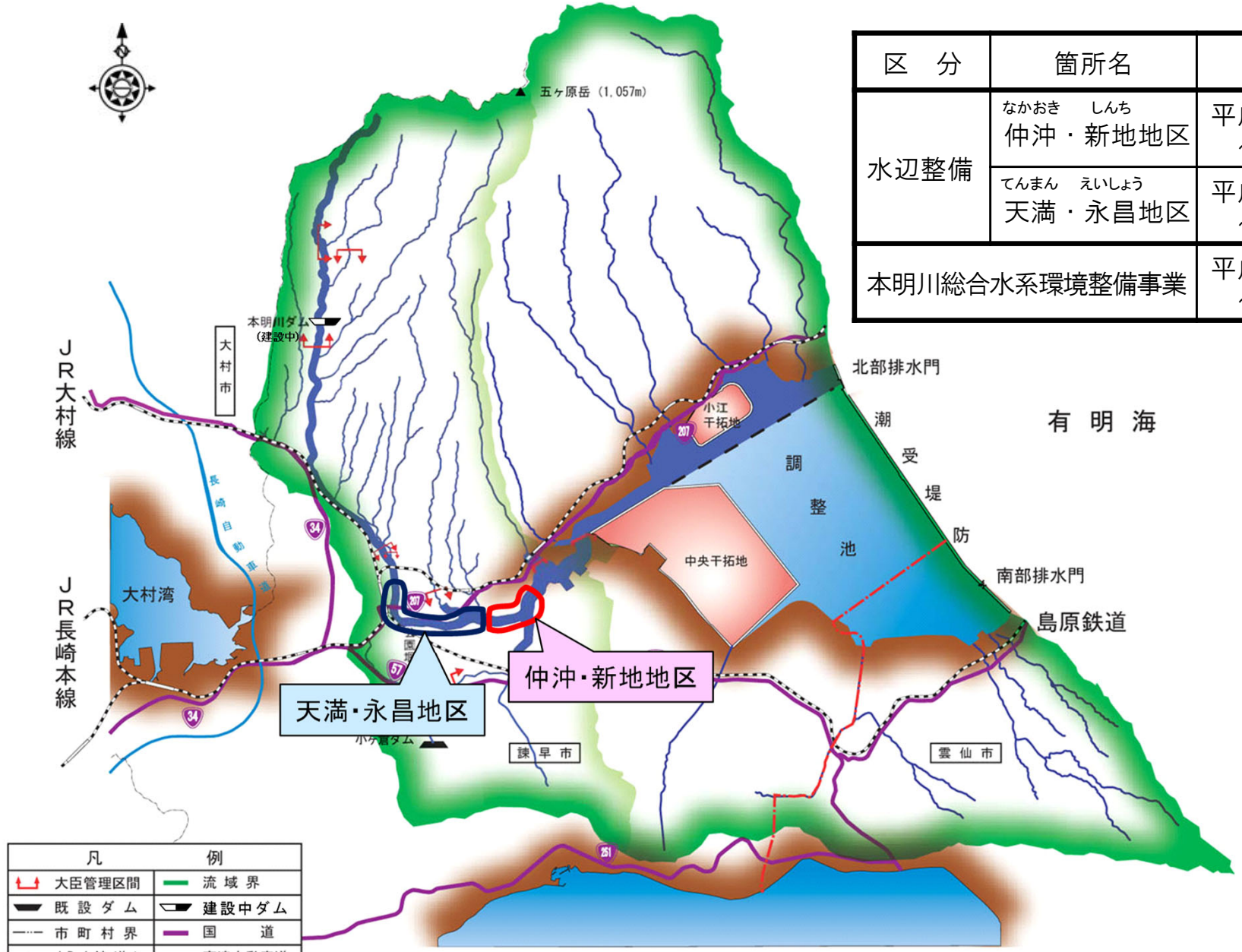
⑥費用対効果分析（算定に用いた効果①）　全体事業（Ｂ／Ｃ）：１．８
継続事業（Ｂ／Ｃ）：５．４

※ 各ページの該当箇所に対応

1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

（1）事業採択年・工事着手年

区　分	箇所名	事業期間	備考
水辺整備	なかおき　しんち 仲沖・新地地区	平成17年度 ～平成22年度	完了箇所 （報告済み）
	てんまん　えいしょう 天満・永昌地区	平成25年度 ～令和9年度	継続箇所
本明川総合水系環境整備事業		平成17年度 ～令和9年度	



凡　例	
	流域界
	河川
	完了事業箇所
	継続事業箇所

1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

（２）事業の進捗状況（継続箇所：天満・永昌地区（水辺整備））

１）事業の必要性等（面的整備）

◆諫早市では、令和４年度九州新幹線（西九州ルート）の開業に向け、本明川沿いを安全に楽しく巡ることができる歩行者ネットワークの確保などを掲げた諫早駅周辺整備基本構想や諫早駅周辺整備計画に基づく再整備、中心市街地活性化等を進めてきた。

◆当該地区は諫早市中心市街地に位置するものの、河川敷に降りるための階段が急勾配であること、一連区間において管理用通路が整備されていないことから、安全に散策できない状況であった。

◆天満・永昌地区に位置する本明川の水辺空間を活かして管理用通路及び階段を整備することで、地域の活性化や安全安心に資するとともに、河川巡視や河川管理の円滑化、河川利用の安全の向上を図ることが可能となる。

安全に散策できない状況

安全に昇り降りがしにくい状況

【整備前の状況】

1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

1）事業の必要性等（拠点整備）

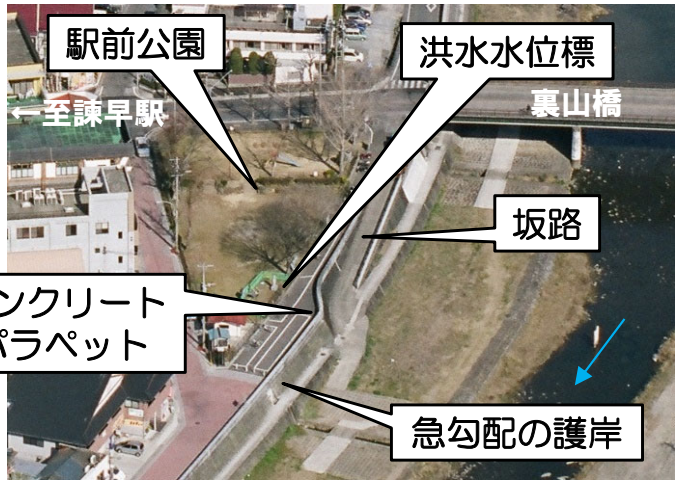
◆諫早駅に最も近い本明川に隣接する「駅前公園」は諫早大水害の痕跡を示す洪水水位標が設置され、水害の歴史を再認識できる重要な場所である。

◆令和４年度新幹線諫早駅開業に向け、管理用通路の整備も含め、諫早駅周辺整備等、新幹線開業効果を最大限に引き出すための様々な取り組みが行われるなか、「駅前公園」は諫早駅利用者等を本明川へ導く玄関口として期待され、「本明川」と一体となった新たな賑わいの拠点整備のニーズが高まっているが、駅前公園と本明川は、急勾配の護岸やコンクリートの堤防（パラペット）で分断され、水辺に親しみにくく、賑わいの創出が図れていない状況であった。

◆近年の洪水の発生状況等を踏まえ、洪水時に河川内に流入、堆積した塵芥及び流木の集積、搬出等、維持管理機能の強化が必要となっているが、当該地区では坂路等が狭く大規模な塵芥等を搬出等を行える場所がない。

洪水水位標

流木の堆積状況
（S32. 7諫早大水害）



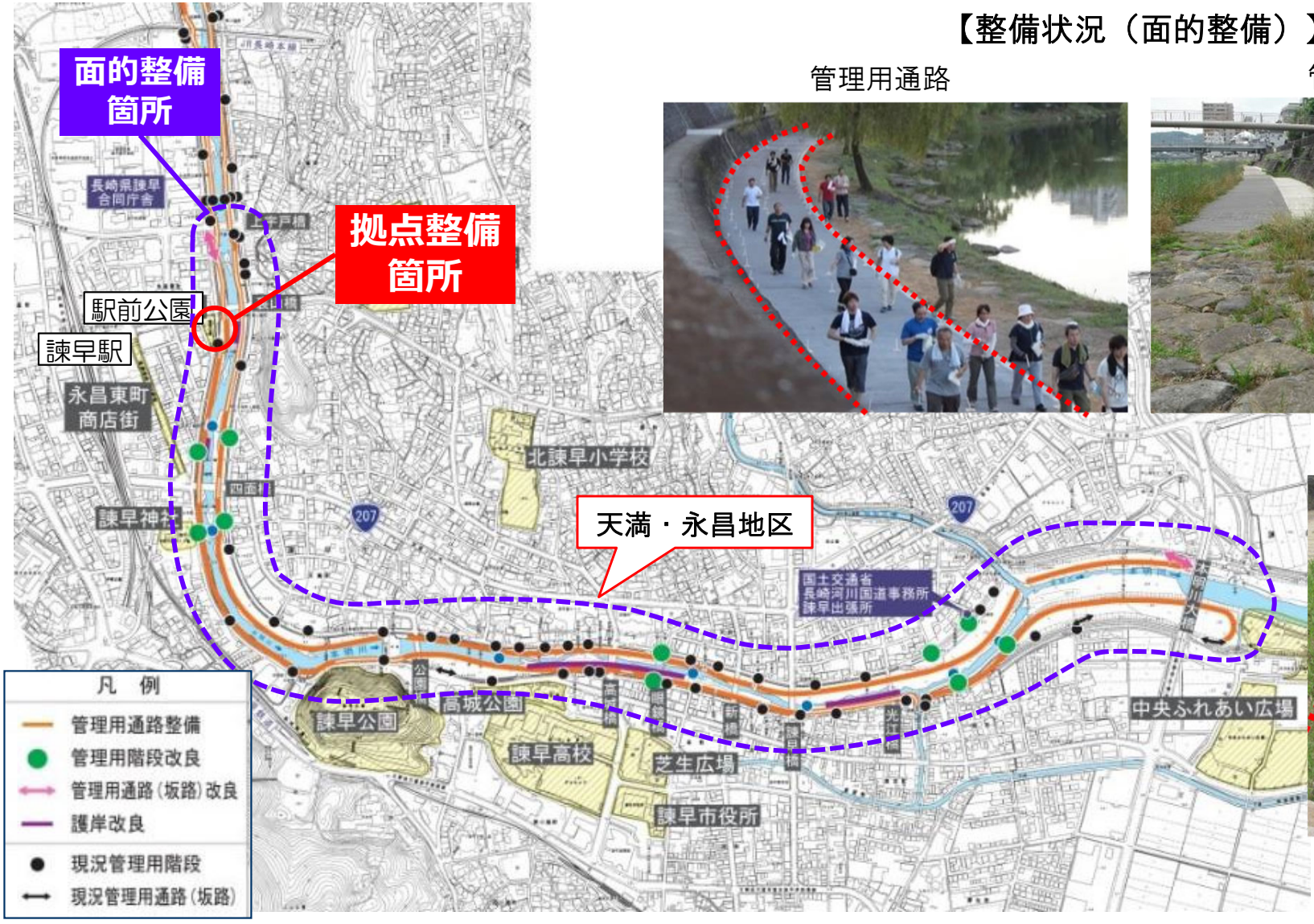
整備前の状況（駅前公園）

◆駅前公園の立地を活かして、水辺に近づきやすい堤防や坂路、高水敷整正等の整備により新たな賑わいの拠点が創出され、多くの人が駅前公園周辺に訪れ、水辺を楽しみ、水害の歴史を感じることができ、塵芥等の搬出等の維持管理機能の強化も図ることが可能となる 。

1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

2）事業の概要・目的

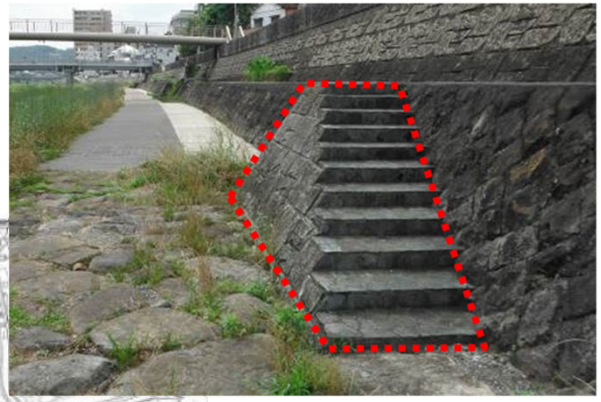
◆地域活性化や河川景観の保全を図るとともに、河川利用者の安全性やアクセス、維持管理の向上を図るため、管理用通路や階段、護岸（緩傾斜）等の面的整備を行う 。（平成29年度整備完了）



【整備状況（面的整備）】

管理用通路

管理用階段

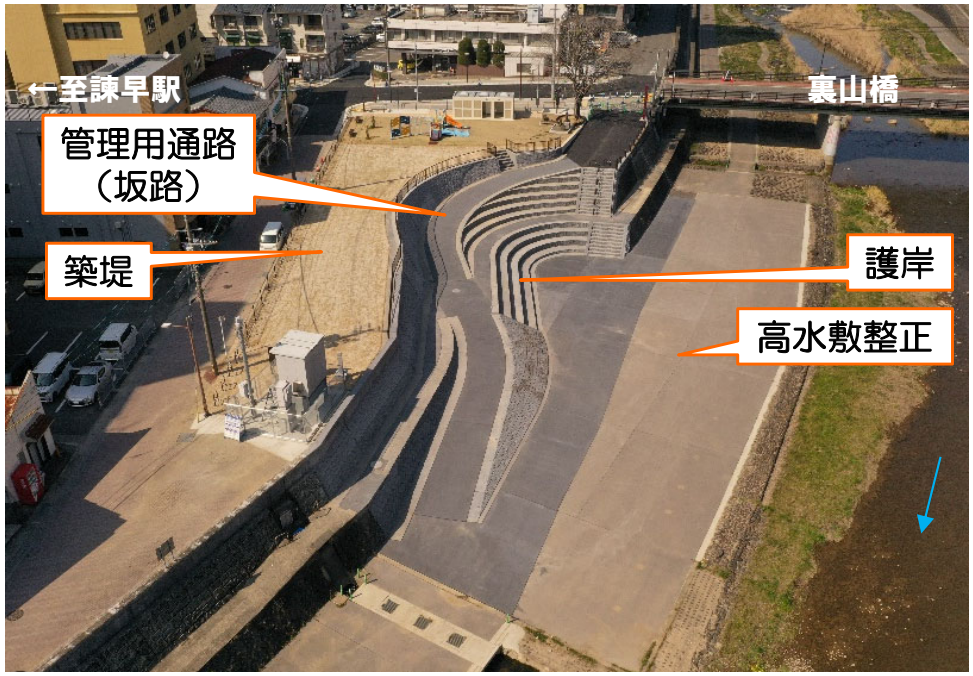


護岸（緩傾斜）

1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

◆駅前公園と本明川が一体となった新たな賑わいの場の創出と河川利用者の安全性やアクセス、維持管理の向上を図るため、高水敷整正や護岸、管理用通路（坂路）等の拠点整備を行う。（令和5年度整備完了）

【整備状況（拠点整備）】



【概要（面的整備、拠点整備）】

位　　置	本明川3k200～6k200
事業区分	水辺整備
主な整備内容	面的整備：管理用通路、管理用階段、護岸、モニタリング調査　等 拠点整備：高水敷整正、護岸、管理用通路（坂路）、築堤、モニタリング調査　等
事業費	7.3億円
整備完了年	令和5年度
事業期間	平成25年度～令和9年度

【工程表（面的整備、拠点整備）】

工種		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
面的整備	管理用通路	■	■	■	■											
	管理用階段	■	■	■												
	護岸					■										
拠点整備	高水敷整正等									■	■	■				
モニタリング調査							■	■	■				■	■	■	■

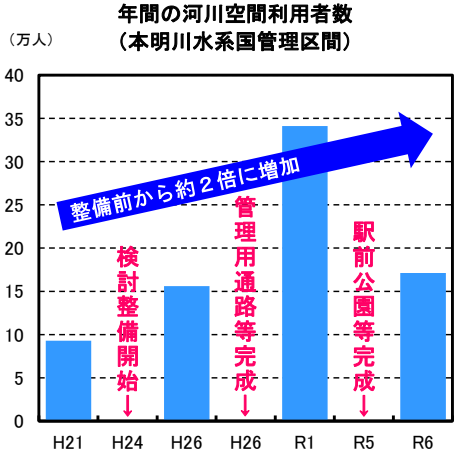
1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

3）事業の現状

◆平成29年度に整備完了した面的整備区間では、通勤、通学、散歩などの日常の利用や諫早神社や諫早公園等の諫早市の歴史あるスポットへのルートでもあり、また、子供たちの野外学習や諫早万灯川まつりや、流鏑馬等のさまざまなイベントに活用されており、地域住民等による清掃も行われている。

管理用通路利用状況

通勤、通学、散歩など日常的にも利用されている。年間の河川空間利用者数も、整備後には整備前から約2倍に増加している。



野外学習状況

◆流鏑馬

管理用通路等の面的整備により、堰で分断されていた諫早神社と下流の河川敷が繋がり、上下流の周遊ができるようになったことに起因し、本明川の河川敷でやぶさめ奉納が100年ぶりに復活。（平成30年4月～）

地域住民等による清掃状況

1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

◆平成25年3月にかわまちづくり支援制度の登録を受け、地域の皆さんとの話し合いを重ね、自然や祭りなどの「諫早らしさ」を引き出すために進められた天満・永昌地区かわまちづくり事業が完了。
◆令和6年3月23日（土）「天満・永昌地区かわまちづくり事業竣工式」を国土交通省長崎河川国道事務所、諫早市で共同開催。来賓の方々、地元関係者、施工業者、国・県・市の担当者約70名が参加。水辺の憩いの空間が創出された喜びと、新たなまちの賑わいづくりへの期待にあふれていた。

日時 ： 令和6年3月23日（土）10時30分～11時40分
場所 ： 長崎県諫早市永昌東町
本明川裏山橋付近河川敷及び駅前公園

次第 ： オープニングアトラクション
開式
黙祷
式辞（九州地方整備局長）
来賓祝辞（長崎県知事、国会議員、地元県議会議員）
来賓・主催者紹介
祝電披露
事業概要説明
地元代表からの言葉
テープカット・くす玉開披
謝辞（諫早市長）
閉会

▲式辞 森戸局長

▲祝辞 大石長崎県知事

▲祝辞 加藤衆議院議員

▲祝辞 古賀参議院議員

▲祝辞 山本参議院議員

▲祝辞 徳永県議会議長

▲分断なく堤防と一体となった駅前公園

▲諫早天満太鼓によるオープニングアトラクション

▲テープカット・くす玉開披

▲謝辞 大久保諫早市長

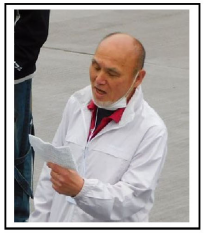
1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

◆令和5年度に整備完了した拠点整備箇所では、駅前公園と一体となった憩いの場や通勤、通学、散歩など本明川を利用するための入り口でもあり、新たな拠点として整備した駅前公園前の河川敷広場は、愛称“リバっぱ”として親しまれ、市民企画のイベントも行われている。

◆駅前公園広場お披露目会が令和6年3月31日に永昌東町自治会主催で開催され、70名を超える参加者で賑わった。地域の方々からは音楽祭や夏祭り等で活用したいとの声が聞かれ、幅広い世代による利用が期待されている。

日時 ： 令和6年3月31日(日) 11時～
場所 ： 長崎県諫早市永昌東町
本明川裏山橋付近河川敷及び駅前公園

次第 ： 永昌東町自治会長 挨拶
県議会議員説明（公園の使い方）
鎮西学院大学JAZZ部 演奏
永昌東町商店街協同組合理事長 歌唱
鎮西学院大学JAZZ部顧問 歌唱
永昌東町子供会 踊り（パプリカ）
じゃんけん列車
はまだこういちろうと仲間たち 演奏
紅白餅まき



▲挨拶永昌東町自治会長

▲鎮西学院大学JAZZ部 演奏

※「リバーサイドの原っぱ」→愛称 「リバッぱ」

▲じゃんけん列車

▲説明

▲はまだこういちろうと仲間たち 演奏

▲観覧席として利用される階段護岸

▲永昌東町子供会 踊り（パプリカ）

▲餅まきの様子

2. 事業の進捗の見込み

（１）事業の実施状況

◆事業名：本明川総合水系環境整備事業
◆計画（整備内容）
〈水辺整備（仲沖・新地地区、天満・永昌地区）〉
・高水敷整正、管理用通路、管理用階段、護岸、モニタリング調査　等
◆総事業費：約16億円
◆整備期間：平成17年度から令和9年度
◆事業進捗率：約99.7%
◆残事業費：約0.05億円（残事業：モニタリング調査）
◆事業の進捗状況
・仲沖・新地地区は整備が完了。
・天満・永昌地区は、平成29年度に管理用通路等面的整備が完了し、平成30年度から供用開始している。
駅前公園周辺の拠点整備は令和5年度に整備完了し、令和6年度から供用開始している。

（２）今後の事業展開

◆天満・永昌地区においては、地元自治体や地域住民等と協力して事業を進め、**平成25年度に事業に着手し、平成29年度に管理用通路等面的整備、令和5年度に駅前公園周辺の拠点整備を完成させている**。
令和6年度以降は、モニタリング調査を実施しており、令和9年度に完了予定である。

（３）今後の事業の進捗の見込み

◆天満・永昌地区では、平成24年4月より地域住民や諫早市、国土交通省等より構成された「本明川河川利用懇談会」が開催され、また、施設完成後は、地元自治会や大学生、商店街メンバーの共同企画・運営によるイベントが開催されるなど、地域の協力体制が整っており、**今後も順調な事業進捗が見込まれる**。

3. コスト縮減や代替案立案等の可能性

（１）代替案の可能性の検討

◆天満・永昌地区の整備内容については、計画段階から「本明川河川利用懇談会」及び「本明川オピニオン懇談会」において協議を重ねた上で、河川管理面、河川利活用面等を考慮した上での適切な整備内容となっており、現計画が最適と考えている。

◆諫早市は、新幹線効果を更に高めるため、まちづくりを具体化する「諫早地域活性化検討委員会」を立ち上げ議論しており、事業の見直し等の必要があれば河川管理者としても新たな事業展開に対して積極的に支援していく。

（２）コスト縮減の方策

◆管理用通路や護岸整備により生じる建設発生土を埋戻材に利用するなど、建設コスト縮減を図った。

◆今後の事業についても、引き続きコスト縮減に努める。

◆近年の技術開発の進展に伴う新工法等の採用による新たなコスト縮減の可能性等を探りながら、事業を進めていく方針である。

建設発生土の仮置き状況

埋戻材への利用状況

4. 対応方針(原案)

◆ 諫早市では、隣接する諫早駅周辺において、本明川沿いを安全に楽しくめぐることができる歩行者ネットワークの確保などを掲げた諫早駅周辺整備基本構想や諫早駅周辺整備計画に基づく再整備、中心市街地活性化等を進めており、天満・永昌地区では、安全で安心して利用出来る河川空間の整備を強く望まれている。
このため、国土交通省では、管理用通路、管理用階段、高水敷整正、護岸等の河川環境整備を行っている。

◆ 平成24年4月から地域住民代表、諫早市、国土交通省等が参加する「本明川河川利用懇談会」を開催し、整備や利活用・維持管理等に関する活発な議論を経て、日常的な施設管理、清掃等については、地域住民、諫早市により実施するものとされた。
このことから、地域の協力体制が整っている。

◆ 事業進捗率は、約99.7%（約15.6億円／約15.7億円）であり、令和9年度には事業完了予定である。

◆ 費用対効果（B/C）については、全体事業１．８、残事業５．４となっている。

以上より、引き続き事業を継続することとしたい。